

公益社団法人 経済同友会

事務局長 様

拝啓 師走の候、みなさまには益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は東日本大震災により被災いたしました本校に対して、四級小型教習艇、カッター、ヨット、船外機、レーダー、その他水上実習用機材類をご寄贈いただき誠にありがとうございました。

3月11日の地震と津波により、本校は校舎1階や実習棟、艇庫、ヨット艇庫、体育館等が大きな被害を受け、また、多くの実習設備が流出、もしくは損壊してしまいました。震災直後より余震の続く中、職員による復旧作業を始めました。原子力発電所事故等により作業が進まぬもどかしさもありましたが、地域の方々はもとより全国各地の皆様から多くの励ましの言葉等を頂戴する中、近隣の小名浜高等学校の協力を得て本年度の授業を開始いたしました。

普通高校の一部を間借りしての授業のため、年度当初は水産・海洋系専門高校の大きな特色でもあります各種実習がほとんど行えない状況でありましたが、6月上旬からは県水産試験場の施設の一部をお借りしての食品製造実習に入るなど、各学科とも少しずつではありますが実習を再開してまいりました。

そのような中、水産・海洋系高校の一番の特色ともいえるべき教習艇、カッター、ヨット等の海上での実習に使用する実習設備が流出・損壊してしまい、これらの実習再開に頭を痛めておりました。そのような時に、貴会より多くの実習設備をご支援いただき、生徒たちの意欲をそぐことなく、今年度末までには遅れていた実習の授業を取り戻す見通しができました。本当に有り難うございました。

地元いわき市の海のシンボルともいえるべき塩屋埼灯台も震災後約260日ぶりに再点灯し、復興への灯をまた一つ灯してくれたところであります。生徒たちも自分たちの学校復興への思いから「P旗プロジェクト」(旗旒信号である「P」:「本船は出航しようとしている。帰船されたい」)を立ち上げ、校舎内の清掃や大震災で犠牲となったクラスメイトの鎮魂と地域の復興を願っての郷土芸能「じゃんがら念仏踊り」に取り組んでくれております。

生徒も職員もまだまだ厳しい教育環境の中ではありますが、本校復興に向けて、校是であります「挑戦・創造・前進」の精神のもと、頑張っていきたいと考えております。そして、2学期末の本校への復帰を目指し、一歩ずつ確実に前進してまいりる所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

まずは取り急ぎ、書中にて御礼申し上げます。

皆様のご健康とますますのご発展をお祈り致します。

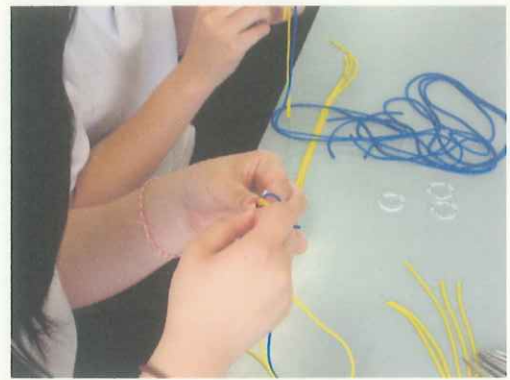
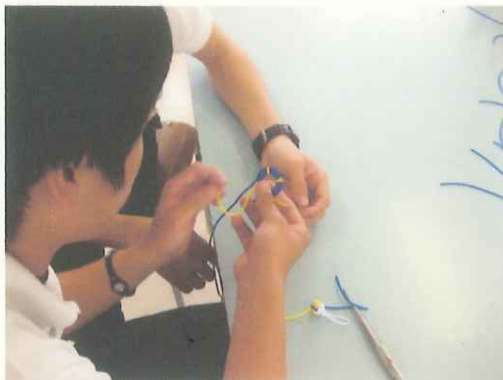
敬具

平成23年12月2日

福島県立いわき海星高等学校長

箱崎温夫

P旗プロジェクトの中で、本校復興へご支援いただいた方々へお礼のしるしとして生徒たちが作製した救命浮環のストラップです。



救命浮環（落水者への救助の手をさしのべられる）